

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



カササギの森でエンジュの状態をみる武春珍さん

Contents

汚水処理施設が大評判!	P 2
「ぼくらの村にアンズが実った」書評	P 3
「豊か」に生きるとはどういうことか	P 4
関東ランチ「水をめぐる中国の歴史」	P 5

2003.7

92

汚水処理施設が大評判！

環境林センターに見学者ラッシュ

先号でお伝えした環境林センターの汚水浄化装置は、大同で大きな反響をよんでいます。評判をききつけた小規模炭鉱から見学者がきました。また、センターでつかいきれない処理水をそのまま外に流したところ、周囲の農民がおどろいてやってきました。そんな人たちの声を武春珍所長が届けてくれたのでご紹介します。

私は趙二女といい、48歳です。十数年来、南郊区平旺村で土地を借り、野菜をつくっています。水がないので、磁務局の生活区の排水を野菜にやっています。ほかの人もみんな同じです。この水は汚いし、臭いし、野菜にもよくないことは知っています。でも、きれいな水はどこにもありません。だから汚水を畑にいれています。

すると、野菜が年々だめになってきて、この2～3年、すぐ病気にかかってしまうようになりました。畑が汚水で汚染されたせいかもしれない。水をやるたびに、恐怖さえ感じます。

この春のある日、流れてくる水が突然きれいになりました。驚いて聞いて回ったら、植林の協力をきている日本人が、環境林センターに汚水処理池をつくったといいます。村の人といっしょに見にいくと、処理池があり、南から入るときは汚水なのに、北側にでるときはきれいな水になっていました。

この水なら、安心して野菜にやれます。土壌を汚染することもなく、病気や毒を心配しなくてもいい。安心して売ることができます。ですから環境林センターの人に言ったんです。日本の友人はほんとにいいことをしてくれた、今度会ったら、よろしくお礼を伝えてほしい、とね。

趙二女（平旺村村民）

この汚水浄化装置をみて、ひらめくものがありました。小さな炭鉱はたいい山の上であり、石炭を掘っていくうちに、地下水がだんだん深くなります。炭鉱労働者は飲む水に困るし、まして風呂なんてどうしようもありません。労働者たちが坑道で働いて、出てくるときは石炭でまっ黒。ほんとに風呂に入りたい。でも、それができるのは大規模な炭鉱だけです。

炭鉱には水がないわけではない、でも、あるのは汚水だけです。こんな小さな装置で浄化できるのなら、水の心配がなくなります。いまは仕事を始めたばかりで資金が足りませんが、すこし余裕ができたなら、ぜひともこういう装置をつくりたいと思います。

高化龍（左雲県小炭鉱責任者）

小規模汚水がわが市の環境に与える悪影響は軽視できない状態です。たとえ流量は少なくとも、周囲の土壌と水

源にたいする汚染は深刻です。この小規模汚水を処理することはわが市の環境保護対策が直面する重要な課題です。環境林センターの汚水処理プロジェクトはこの小規模汚水問題を解決するための貴重な試みです。このプロジェクトの建設は、環境林センターの周辺数百ヘクタールの土地と水源汚染を改変するだけでなく、わが市の小規模汚水処理にとって非常に重要なモデルとなるものです。このプロジェクトは日本大使館の絶大なる支持と高見邦雄さんの助力によって建設されたものであり、わが市の環境保護にたいする新たな貢献です。十数年来、彼らが大同の環境のためにはたした貢献は誰もが敬服しています。私は300万大同人民とともに、謝意を表します。

梁鳳書（中国共産党大同市委員会副書記）

大同におけるSARSの顛末

王萍（緑色地球ネットワーク大同事務所通訳）

この春のSARS騒ぎで山西省も感染地域に指定されたため、たくさんの方に「大同は大丈夫？」とご心配をいただきました。大同市では患者数は多くなかったものの、学校が休校になったり、人の往来が制限されるなど厳重な警戒体制がとられたとか。実は、通訳でお世話になっている王萍さんの勤務先、大同市伝染病病院がSARS指定病院となり、王さんは毎晩遅くまで病院につめたりして大変だったそうです。ようやく落ち着いたので、簡単な報告を送ってもらいました。

緑の地球ネットワークのみなさん、こんにちは。

すでに夏にはいりましたが、大同は相変わらずとても涼しく、最高気温は22～26、最低気温は8～12で、1日の気温差は10すこしです。大阪はいかがですか？

大同市のSARSに関する状況をお知らせします。

4月16日に、大同市で最初の確定患者がでました。北京の学校に行っていて、親元に帰ってきた学生でした。現在までの確定症例数は合計5例で、すべて大同市の外で感染したものです。5月6日に最後の2例が確定され、その後新しい症例はでていません。6月17日に最後の患者が快復して退院、大同市はSARSとのたたかいに1段階の勝利をおさめました。

SARSが猛威をふるいはじめたとき、

大同市では2つの病院がSARS患者の治療にあたりましたが、大同市政府は5月13日に大同市伝染病病院をSARSの指定病院に決定し、以後すべての患者はここで治療されました。現在全員快復、退院して、SARS患者はいなくなりました。（2003年7月1日）

夏のワーキングツアー 中止のお知らせ

中国のSARSはおさまりましたが、すぐに観光客がもどるというわけにはいかないようです。GENの黄土高原ワーキングツアーもむずかしい判断をせまられましたが、成立するだけの応募者が集まる見込みがなく、今回は残念ながら中止することに決めました。この冬を無事のりきって、来春こそはツアーが実施できるように願います。

第9回会員総会の報告



会員拡大にご協力ください

第9回会員総会時点での会員数は、584個人・団体でした。昨年まではわずかずつながら増加していましたが、今年に入って減少傾向がみられます。イラク戦争とSARSの影響で春から夏の黄土高原ツアーが中止となったのが大きな原因です。

1992年以来、GENは着実に活動をすすめてきました。中国の環境問題に草の根で取り組む重要性は強まっています。今春は朝日新聞社「明日への環境賞」を受賞して、社会的な評価をいただきました。今後もこの活動を維持・発展させていくためには、いっそう多くの方々に参加・支援していただくことが、ぜひ必要です。

何の後ろだてもない民間団体です。会員・協力者が頼りです。まだ会員でない方、ぜひ入会してください。また、周りの方にGENの活動を応援して下さるよう、呼びかけてみてください。

会員拡大にみなさんのご協力をお願いします。

また、ポースカンパもお願いします。郵便振替の用紙を同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではないのでご了解ください。

GREENなんでも勉強会 土と水をきれいにする？ 土壌浄化による汚水処理

前ページで現地の反響を紹介した環境林センターの汚水処理施設の基本設計者、菅原正孝さんに、土壌浄化による汚水処理について話していただきます。詳細は次号でご案内します。

日時：9月25日（木）18時30分～20時

場所：大阪産業大学梅田サテライト教室（大阪駅前第4ビル22階）

講師：菅原正孝さん（大阪産業大学人間環境学部学部長）

6月14日、大阪市立総合生涯学習センターにおいて、緑の地球ネットワーク第9回会員総会が開催されました。

会員総数584名（団体を含む）のうち出席53名、書面による決議への参加188名、委任状提出者61名、合計302名で総会が成立しました。

2002年度事業・決算・監査報告とその承認、2003年度事業計画・予算の承認、新役員の承認がおこなわれました。

新役員はつぎのとおりです。

代表 立花吉茂

副代表 西山五郎 / 有元幹明

事務局長 高見邦雄

会計 太田房子

世話人 竹中隆 / 前川宏 / 干場革治 / 向川郁郎 / 小畑勝裕 / 川島和義 / 巽良生 / 上田信 / 深尾葉子 / 山永ユカリ / 東川貴子 / 長坂健司 / 宮崎いずみ / 稲井由美 / 伊東博之 / 八木丈二 / 松永光平

監査 早草晋 / 池場道明

顧問 石原忠一 / 小川房人 / 遠田宏

『ぼくらの村にアンズが実った』書評

人間の強さと弱さを凝縮した1冊

柴田 昌平（プロダクション・エイシア）

この本を手にとったとき、表紙の写真に見とれてしまった。黄土高原の乾いた茶色い大地に咲き誇るアンズの花。剥き出しの大地にこれほど美しい花を付けるのか。1999年、私はこの村に著者に案内していただいたことがある。その時はまだ開花に至らず、野ウサギにかじられた枯木が累々と広がっていた。「来年には開花し実を付ける」という著者の言葉を半信半疑で聞いていただけに、写真を見ての驚きはひとしおだった。

本書は、大阪に本部を置くNGO「緑の地球ネットワーク」事務局長、高見邦雄氏による、黄土高原の緑化の記録である。高見氏が村々に通い始めたころ、「日本鬼子」と罵られることもあったという。せっかく植えた6万本のアンズが、共産党幹部の転勤によって管理を疎かにされ、全滅したこともあった。地震や日照り、洪水といった天災。過酷なまでの自然の猛威に対して、全身をアンテナにして人間関係を観察し、信頼できる相手を探し、緑化にむけて地元の人々のやる気を引き出していく。「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」。森のことはほとんど何も知らなかった高見氏だが、10年を経て、「人の心に木を植える」と評されるまでに変わっていく。

沙漠の緑化というと、ポプラやマツ

を植える映像がすぐ思い起こされる。なぜアンズなのか？そこに、「貧困の連鎖を断ち切りたい」という高見氏らの深い願いがあった。単なる植林をこえ、黄土高原に適した樹木の研究もしてきた。今では新種導入のための植物園を作るまでに至っている。その一步一步、地元の農民たちとの交流と葛藤を、ユーモアたっぷりの文章でつづっている。

中国はいま急成長ぶりが注目され、首都北京は繁栄を誇るかにみえる。その背後から、水や電気などの供給を支えているのが本書の舞台、山西省大同地区。ここはかつて森林だったが、2008年には地下水が完全に枯渇すると予測されるほど沙漠化が進んでいる。高見氏は「大同から見る後ろ姿の北京は砂上の楼閣」と看破する。

本書を読み、中国での格闘を知った後で再び見た表紙の写真は、また違ったものに見えてきた。アンズの実を手にして豊かさを知った農民はさらなる豊かさへの渇きを持つという。人間の強さと弱さを凝縮した1冊だ。

『ぼくらの村にアンズが実った - 中国・植林プロジェクトの10年』

高見邦雄著 / 日本経済新聞社 / 1,600円（税別）書店でおもてくださいます。GENでも取り扱っていますが、郵送料290円が別途必要です。

「豊か」に生きるとはどういうことか

槌田劭さん講演抄録

会員総会に先立っておこなわれた槌田劭さんの講演「「豊か」に生きるとはどういうことか」の要旨をご紹介します(要約:川島和義、文責:編集部)



今日のテーマの「豊か」に生きるとはどういうことか。むずかしいテーマですが、日頃私が考えていることをお話しして、お役にたてば幸いです。科学技術文明から手作り味噌の世界へ

私は1973年に「使い捨て時代を考える会」を始めました。当時、私は京大

の工学部、「科学技術の進歩が日本を豊かにするのはいいことだ」という世界で科学者としてまあ順調に勤めていましたが、科学技術文明によって作りだされる豊かな文明社会は必ず行き詰まる、つぶれると確信しました。浮かれて豊かな社会をつくっていると思っていたが、実は生きるということを忘れた、暮らしということも消えた、そういう世界をつくってしまったということに気がついたからです。それで、科学者であることをやめ、古紙回収と手づくり味噌を始めました。

手づくり味噌をしてみると、今までとはまったく違う世界が見えてきまし

た。糀(こうじ)を習ったおばあちゃんから「夫婦仲のいい家でなかったら、いい糀はできません」と言われた。何のことかわかりませんでした。実際つくってみると、なるほど納得する。

糀をつくる時、本には何時間経ったらどうなる、何度に置いといたらどうなる、という理屈が書いてありますが、実際は理屈通りじゃない。いい糀をつくらうと思えば、起こっている事実を虚心に観察し、観察した事実に基づいて適切な行動をとらなければならない。糀の言い分を聞いてやれば糀はうまくできる。とすれば、夫婦仲のいいことと関係してくるわけです。

妻の希望を十分に理解し、妻は何を喜ぶだろうかと考える夫であれば妻は幸せ。妻が幸せであればここにこしているから、そういう妻とつきあう夫もまた幸せです。そういう関係だとお互いに希望を認識し、その希望にあわせて行動するから、ますます夫婦仲もよくなるし、幸せも深まるわけです。

本当の幸せというのは、どうもそういうところにありそうだ。共に生きるという意味の「共生」という言葉が近頃は定着していますが、私が30年前に初めて使ったころは、私の知る限りでは生物学以外では使われていませんでした。生物世界がどういう原理でなりたっているかを勉強して、共に生きることが幸せに生きることであり、本当の意味での豊かな生き方なのであるということを知りました。

日本の「豊かさ」と金主主義

日本で「豊かな時代」と言われるようになったのは、そう古くはない。私が子どものころ、戦時中は、軍国主義的社会で、「欲しがりません、勝つまでは」「ぜいたくは敵だ」とつつましくやかに貧しく生きていたわけです。

1945年8月に敗戦を経験したときに、それまで正しいと言っていたことがガラッとひっくり返りましたが、そのことについて本当に反省したのか。占領軍を進駐軍と呼び、敗戦という事実を認めずに終戦と言った。価値観の変動を素直に受け入れようとしなかった。

いま、長引く不況で右肩上がりだめになり、右肩下がりになっている。

例年、会報で会員からの総会へのメッセージをご紹介していましたが、今回は「カウンターパートを青年連合会から総工団に変更した経緯がよくわからない」という声があったので、総会での高見事務局長の報告から抜粋して説明にかえます。

カウンターパート 変更の経緯

大同市青年連合会がカウンターパートだったんですけど、実際のごとは専門の組織「緑色地球ネットワーク大同事務所」がやってきました。2001年の末、それまでの祁学峰主席が南郊区の党の副書記に栄転し、後任が選ばれたんですけど、とたんに大同事務所のメンバーを入れ換えようとしたんです。

2002年3月、遠田先生と大同に着いてみると、事務所メンバーは仕事に手につかず、まもなく日本からツアーがくるのに、なんの準備もしてない。この事業は長く継続し、かなり高度に専門化しているのに、事情を知らない人間がパッと入れ替わるなんて不可能ですよ。事故でも起きたらたいへんです。私が前面にでて準備にあたり、新しい主席となんども話しあいました。ところが話が通じない。しかたがないので、共産党大同市委員会に善処を要請しました。

党のほうは事情を了解し、こちらの

意向どおりに青年連合会を指導したんです。その主席も、党の指導を受け入れ、そのとおりにすると私に言明しました。ところが2003年になったとたん、同じことを繰り返したんですよ。彼はプロジェクトの現場にいかないんですね。重要なミッションが日本から訪れたとき、いっしょにチラッとみただけです。現場を知らないから、そんな乱暴ができるんですよ。

私はすぐ大同について、共産党大同市委員会を訪ねました。こんなことが繰り返されたら、実際的な事業はできないですよ。誰も安心してしごとができない。党のほうもそうした事情を了解し、協力の相手を青年連合会から大同市総工団に移すことを決めました。大同事務所のメンバーも資産も、すべて移管されたんです。現場を第一に考え、その安定を追求し、円満に解決できた、といったところでしょうか。

総工団は、労働組合の連合体です。この事業をたいへん重視してくれていますし、いろいろな面でこれまでより安定した環境を築けそうです。



この現実を虚心に受け取らずに、成長が続くものとして、不況脱出などという議論をしているのが、私には終戦と言い換えて敗戦の事実を素直に受け入れなかった姿と二重重ねにうつります。

敗戦直後は、生きていくために必要な生活物資が不足していた。欲しいのにものがないとインフレになります。このときのインフレで、お金は値打ちがないと思ひ知った。米を買いにいつでも売ってくれない。農家にもお米がないから、いもや野菜を分けてもらう。焼け残った着物を1枚1枚はぐようにして交換してもらうので、たけのこ生活といった。この経験は思い出されるべきものだと思います。

1950年に朝鮮戦争が起こります。自らは戦場にならず近隣の国で戦争があるということ、とんでもないことですが、ありがたいことで、3年間の戦争の間に、朝鮮特需、戦時景気で、日本の経済は戦前の水準に回復しました。

隣の半島で血の涙を流している、まさに不幸の真最中に、財界の指導者は千載一遇のチャンスとこの事態を大喜びし、いとへん（繊維産業）ブーム、かねへん（鉄鋼・機械加工業）ブームに日本の社会はわきたった。戦前の歴史を反省していない日本人だから、単純に喜べたのかも知れません。

この朝鮮特需の真最中に、日本は逆コースの道をたどって、警察予備隊ができ、保安隊となり、54年にこんにちの自衛隊となる。国際紛争解決手段としての戦争を放棄し、国際間の信義に基づいて外交によって平和を保つという憲法が精神がくずれた。戦後民主主義はなしくずしに崩れて、教育の反動化、先生の政治的自由も、発言の場も奪われていって、こんにちの惨憺たる教育状況につながってくるわけです。

私は金主義と言っていますが、戦

後民主主義をすて、お金のお金によるお金のための社会に進んできたとき、同時に命が脅かされる時代になった。公害時代の始まりです。戦後公害の原点の大公害事件・水俣で、最初の犠牲者が出るのがこの時期です。

命を脅かす大公害問題は、それ以後、森永砒素ミルク事件、四日市喘息と次々に起こります。経済戦争が国策として戦われているとき、少々の犠牲者が出るのは戦争の常だと公言はしないけれども、まさにそのような時代を、われわれは「豊かさ」の形成の中で実現してきたわけです。

石油を使い、電化することで、交通手段が速くなり、大量の物資と人が早く大きく動くようになりました。そのスピードに人間がついていけなくなっています。早く大きくお金を軸に回転することによって、目が回ってしまっている。忙しいという字は、心を亡くすという意味ですが、人間らしい気持ち失われている。

交通事故による死者が年間1万人、統計のトリックで実際はもっと多い。大騒ぎになった狂牛病は、日本でも数例みつかりましたが、死者はでていません。しかし、狂牛病で死んでいないけれども、狂牛病の風評被害を受けて何人の酪農家が自殺したのでしょうか。

交通事故でそれだけたくさんの方が死んでいるのに大騒ぎをしない現実と、ちょっと話題になるだけでパニックになって大騒ぎをする、その落差はいいなんでしょう。

目が回ってしまっていて、じっくり腰を下ろして物事を考えることができず、そういう時代を、豊かなものとしてわれわれは受け入れているのです。ゆたかに生きる

「ゆたか」というやまとことばには、いろいろな字が当てられています。「裕」も「寛」も、ゆたかです。漢和辞典をひいてみると、大きくてゆったりと満ちることとか、ゆったりと落ち着くこと、人の気性のゆったりくつろぎのあること、というようなことがざらっと並んでいます。

人間の身体は、2本の足で動くようにできています。歩く速度でものごと

を考えていけば、世界はゆたかになってくる。歩いていけば、道草を食う幸せ、喜びがある。文字通りの道草、よもぎやたんぼぼを摘んで帰ったら、晩ご飯のおかずを1品増やすこともできる。野の花は小さくて目立たないけれども、注意してみると、見事な自然の芸術ですね。道草を食って歩きながら生きる暮らしなら、もっとゆったりとのびやかに、お金のかからない幸せを得られるのではないかと。

中国のあの子どもたちの目の輝きを見るとき、日本よりゆたかかもしれない、ものはないし、お腹をすかせているかもしれないけれども、日本の子どもより幸せかもしれない、と思います。

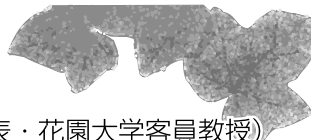
私は、黄土地帯の緑化に大賛成で、参加もしましたが、非常に危ないと思っていることがあります。自分たちの現実を反省し、自分たちの社会の「豊かさ」を問い直すことなしに行けばどうということになるか、ということです。

占領軍の兵隊は、日本が打ちのめされて貧しかったときにチョコレートをふりまいて子どもたちを喜ばせたけれど、子どもたちの中にある劣情（言葉が違うかもしれませんが）を操作することで欲求不満をつくりだした。

私たちが善意でむこうへ行く場合でも、その点は気をつけなければならないだろうなと思いつつ、あの中国の子どもたちの目の輝きがつづくこと、そして日本の子どもたちにも、目の輝きを取り戻される日のあることを、私は願っています。それが本当のゆたかさであろうと思うからです。

私は、生きてきたことに胸をはれる人生を生き、そして、人間は必ずあの世へ行くのですから、胸をはってあの世に旅立つ、そういうふうになりたいものだと思います。そのためには、風土に合ったゆっくりした歩みで、自然な生き方を手探りでしていく、そのなかで、人間と人間がお互いに助け合い、励ましあう智恵が必要です。

植物を育てる (23)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

発芽促進処理

野生植物の種子の発芽は遅く、不揃いで、発芽率が大変低いことはよく知られている。樹木を育成している造林家のあいだでは、種子の熱湯処理がおこなわれている。造林につかわれるアカシアやネムなどのマメ科植物の多くは、種子が硬実であり発芽率がきわめて低い。そこで、種子に傷をつけたり、硫酸処理や熱湯処理がおこなわれる。熱湯処理は簡単であるため実用的である。ここでは熱湯処理の方法について述べよう。

熱湯処理

少量の種子なら、コップに種子を入れ、沸騰した熱湯を注ぎ込み、冷め

させた(図2)、30分~2時間おくとどの温度も100%近くの発芽率を示した。

ニセアカシアの場合

ネムノキと異なりどの温度もあまり促進効果はなく、70で15分処理した場合だけが効果があり60%発芽した(図3)。

考察

この実験の結果、湯の温度は最初の予測どおり60~70がよいことがわかった。発芽に

熱(温)湯処理は効果があったが、種類によってその効果が非常に異なることがわかった。ネムノキはどの温度にも幅広く反応したがニセアカシアは70にだけ反応した。

マメ科以外の種類についての実験結果は次回に紹介したい。

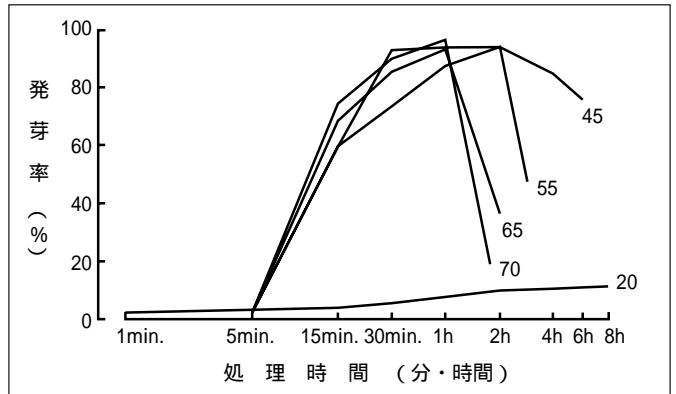


図2 ネムノキ種子の熱(温)湯処理時間、処理温度と発芽率の関係。27 ± 2 の恒温器内で発芽させ、30日で締め切り、各区100粒ずつ2回繰り返しの平均値。横軸は対数目盛で示す。

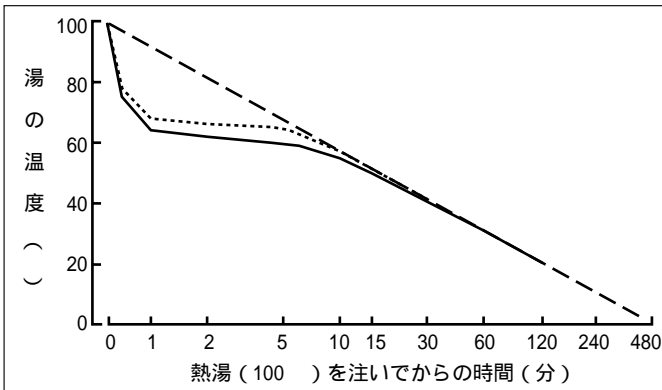


図1 湯飲み(コップ)を用いた熱湯処理の温度の加工時間。実験は室温(20)に置いたもので、点線は前もって熱湯で湯飲みを暖めておいたものを示し、破線は自然的下降線。横軸は対数目盛で示した。

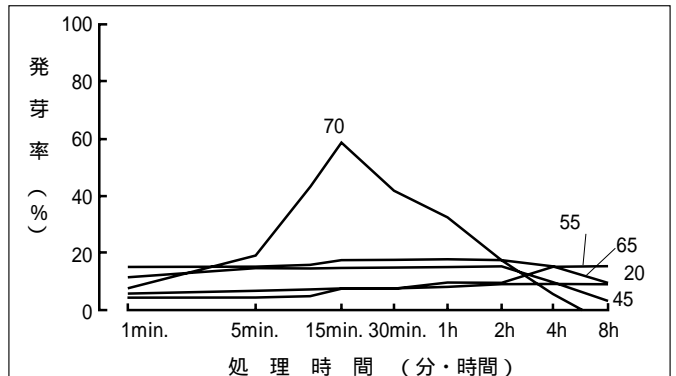


図3 ニセアカシアの熱(温)湯処理時間、処理温度と発芽率の関係。27 ± 2 の恒温器内で発芽させ、30日で締め切り、各区100粒ずつ2回繰り返しの平均値。横軸は対数目盛で示す。

てから蒔く。このときのコップ内の熱湯の温度の移り変わりを図1に示す。湯を注ぎ込んで1分後には65前後に下がっている。そして7分後までほぼ同じ温度がついている。10分後は徐々に低下して2時間後には室温(20)にいたる。このことから70前後の温度が効果をもたらすのではないかと考え、次の実験に移った。

ネムノキの場合

45、55、65、70の温度を保った湯の中にネムの種子を浸し、5分間、15分、30分、1時間、2時間、4時間、6時間、8時間おいてから発芽

関東ランチ6月例会報告

水をめぐる中国の歴史

—黄土高原の沙漠化はいつからはじまったのか?

村松 弘一 (学習院大学東洋文化研究所・助手)

GENが緑化協力をおこなっている大同が含まれる黄土高原の北辺は、現在沙漠化が最も進行している地域のひとつで、緑化による沙漠化防止が試みられています。しかし、どこでも適当に木を植えればいわけではありません。かつて森林が存在した場所を緑化

することには意味がありますが、存在しなかった場所に木を植えても、逆に環境破壊になってしまうといわれています。では、どこに森林があったのか、それはどのようなもので、人間とのかかわりのなかでどのような過程を経て縮小・消滅してしまったのか。そう

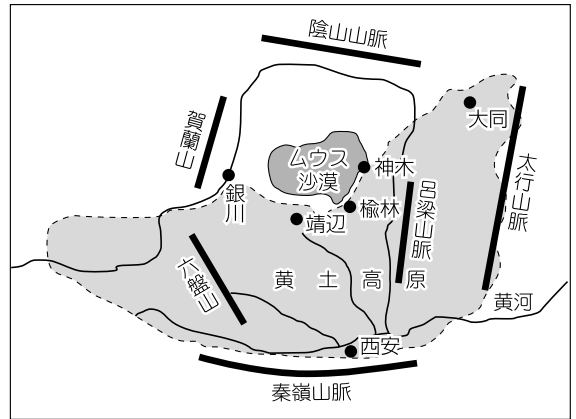
いったことを解明する新しい歴史学の研究領域は「環境史」とよばれ、最も注目されている研究方法のひとつです。

では、古代の黄土高原には森林があったのでしょうか。著名な歴史地理学者の史念海氏（陝西師範大学）によれば、陝西省榆林市の北、ムウス沙漠に至るまで、黄土高原地帯には広大な森林が存在していたが、2000年にわたる人間の活動によって縮小してしまったという。この意見に対して、近年ではたとえば韓茂莉氏（北京大学）によれば、沙漠拡大の原因はすべてが人為的なものではなく、人間の活動は自然に進行する沙漠化を加速させたにすぎないということや、ムウス沙漠は2000年前にも今よりも小さいがすでに存在しており、沙漠の周辺に林が散在した状態だったという。また、考古学の分野では神木県の大保当漢代城址（陝西省神木県。2世紀）や統万城遺跡（陝西省靖辺県。5世紀）で都市の遺跡の下から砂の層が発見されたことから、沙

漠の上に都市が建設されたとの見方も出されています。

史念海氏の説に対して修正を求めるこういった見解が近年見られますが、一方、かつて何らかの水資源や森林があったことを示すような、人間生活の証がいろいろなところから出ています。以下に例をあげます。

- ・現在は沙漠となっている寧夏回族自治区銀川市付近の賀蘭山の岩画（紀元前8世紀～紀元後13世紀ごろに制作）には森に生きる動物が描かれている。
- ・秦（前3世紀）の長城の大部分は現在では沙漠化の最前線に位置するが、建設された当時はそこで働く人々の生活のために水が不可欠であり、水を保持するための森林があったはずだ。
- ・陝西省北部で後漢時代（2世紀）の墓の中に描かれた画像石の題材には鹿など森に生きる動物がみられる。



今後は、こういった事例を積み重ねることによって、かつての森林のすがたを復元し、さらには2000年間にわたる森林と人間のかかわりかたの歴史を研究していきたいと考えています。

当日（6月7日）はGEN顧問の遠田先生、世話人の上田先生をはじめ20名以上の方に集まっていただき、討論の時間も1時間ほどとれ有意義な意見をうかがうことができました。

黄土高原史話〈14〉

殷の都は洪水（？）で転々

谷口 義介（摂南大学教授）

「近い将来、水不足の深刻化で首都を北京から移転せざるをえない」とは、さる中国政府首脳の話。北京の水源のひとつ山西省の桑干河は、いつ行っても水無し川。

華北大平原を潤してきた黄河も1972年、下流の山東省で史上初めて断流が観察されて以来、97年には13回にわたって水が途絶え、総日数226日、区間は河口より700km遡って河南省の開封にまで達しました。

これより遙か数千年の昔、殷は河北・山東あたりから興りますが、始祖契（せつ）より拠点を八たび遷しつつ南行・西進し、王朝の創始者湯王が「亳」（はく）に都を構えてから（B.C.1600年頃）また五遷して盤庚（ばんこう）が「商」に都を定め、その地で紂王（ちゅうおう）が滅亡を迎えます（B.C.1055年頃）。「亳」は河南省洛陽のすぐ東、「商」は河南・河北

の省境に近い安陽。

農耕民族だとその定着性からいって、よほどのことがない限り首都を移転することはありえませんが、殷が十数回も拠点を遷したのは、狩猟・牧畜生活の名残りが。しかし殷は甲骨文による占いの内容からみても、農耕に経済の基盤を置いています。頻繁な遷徙は、たびたび襲った大洪水と無関係ではないでしょう。

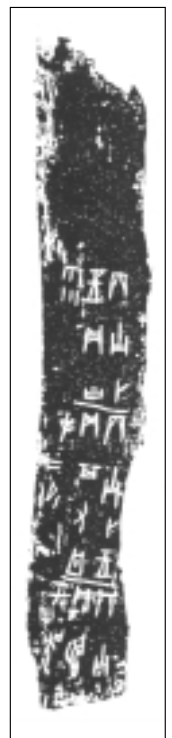
ちなみに、長江流域でB.C.2900年頃より営まれた石家河遺跡は1000×1100mの規模を誇る巨大城郭都市ですが、B.C.2200年頃、突然滅亡。大洪水が原因とみられています。

黄河の河曲部より東南といえば、名だたる洪水地帯。いく系統かの洪水神話も、ここに集中・重層しています。華北大平原に点在する古邑の名にやたら「丘」「×邱」が多いのは、微高地・丘陵地を選んでその上に集落を営

んだから。殷が黄河を北渡して安陽についで都を定めたのも、その地が氾濫原から離れた太行山脈の東麓にあったからでは？

実際、雨も多かったようです。甲骨文字が刻まれた安陽では、1年のうち雨の降らない月はなく、18日間続いた長雨の記録も。今日の安陽の年間降雨量500mmが信じられないほどです。しかも2月・3月に「多雨」「大雨」の記事が多い。華北の畑作地帯にとっては、「油より貴重」な春の雨。今よりよほど降雨状況は良好だったらしい。

もっとも、卜辞には求雨の文がみえ、女魃の説話や殷の湯王の祈雨儀礼の話もありますから、もちろん日照り・旱魃の年がなかったとはいえませんが。





*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

洞川エコミュージアムセンター 自然観察会

夏の野草教室

日時：8月10日(日)10時～15時
集合場所：洞川エコミュージアムセンター
持ち物：弁当、水筒、帽子、筆記用具、雨具等(小雨決行)

クラフト教室

日時：8月23日(土)13時30分～16時
場所：洞川エコミュージアムセンター
持ち物：帽子、タオル、汚れてもいい服装

クリーンハイク

日時：9月6日(日)10時～15時
集合場所：洞川エコミュージアムセンター
持ち物：弁当、水筒、帽子、軍手、雨具等(小雨決行)
参加費：100円(保険料)
小さい秋見つけよう
日時：9月21日(日)10時～15時
集合場所：洞川エコミュージアムセンター
持ち物：弁当、水筒、帽子、筆記用具、雨具等(小雨決行)

それぞれ集合時間は開始15分前記入がない場合、参加費1,000円
申込み方法
宛先：天川村洞川エコミュージアムセンター 〒638-0431 吉野郡天川村洞川784-32 TEL. 0747-64-0999 FAX. 0747-64-0888 e-mail: eco@vill.tenkawa.nara.jp
上記あて各観察会の1か月前までに観察会番号、住所、氏名、電話番号、年齢をご連絡ください。
近鉄吉野線「下市口」駅から奈良交通バスで「天川村洞川」まで約1時間15分。

(すべて土・日。土曜19時～日曜16時、1泊2日、全6回)
費用：受講料：25,000円(一括前納)もしくは各回5,000円
宿泊料：5,500～7,000円(1泊朝・昼食つき) との両方が必要
主催・問合せ・申込み：(特活)関西NGO協議会(〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 TEL. 06-6377-5144 FAX. 06-6377-5148 e-mail: knc@ak.wakwak.com URL http://www.ak.wakwak.com/knc/)
事前説明会
日時：8月30日(土)14時～15時
場所：関西NGO協議会事務局(阪急「梅田」駅茶屋町口3分)

第17期 関西NGO大学

国際協力・NGO・ボランティアに関心がある人は世代を問わずどなたでも参加できます。今年のテーマは「私が社会をよくする一人」。
日時：9月20、21日 / 10月18、19日 / 11月15、16日 / 12月13、14日 / 1月17、18日 / 2月14、15日

編集後記

谷口先生の「黄土高原史話」には、よく見慣れない言葉がでてきます。こんな言葉あったっけ? と思いながら広辞苑や漢和辞典を調べるとちゃんと載っています。今回は「遷徙」でした。日本語って、奥が深いですね。(東川)